日支事變特輯號

第七卷

昭和七年 五月號

歷史寫眞

大正二年創刊
第二百二十八號

爆彈三勇士の歌の演奏

歷史寫眞第二百二十八號 昭和七年四月二十五日印刷納本 大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和七年五月一日發行（每月一回一日發行）

表紙繪と口繪

――表紙繪――

◇爆彈三勇士の歌の演奏

二月二十二日上海廟行鎭の敵陣地を攻擊するに際し、その身を粉碎して敵の鐵條網を破壞し、以て我軍を勝利に導きたる『爆彈三勇士』の壯烈鬼神を哭かしむる行動は、果然天下の耳目を聳動し、或は演劇に或は映畫に、その壯絕比類なき戰死の狀は取入れられて彌が上にも人々を昂奮感激せしめたのであるが、更に『朝日』『日日』其他の大新聞は莫大なる賞金を懸けて『三勇士の歌』を募集しその勳功を廣く長へに人口に膾炙せしめんと企てた。就中『東京日々新聞社』の懸賞に當選したる我詩壇の元老與謝野寛氏の作に係るものは莊重の字句と洗錬せる用語とを以てして、巧みに三勇士の精神を歌ひ、彼等が勇躍突進、笑つて死地に就くの狀惻々として人の肺腑に迫るものがある。寫眞は陸軍戸山學校軍樂隊が三月下旬大阪に於て『爆彈三勇士の歌』の市内演奏行進を行ひたる際、第四師團司令部を出發せんとしつゝある光景である。

爆彈三勇士の歌

與謝野寛氏作詞
陸軍戸山學校軍樂隊作曲

一、廟行鎭の敵の陣
　我れの友隊すでに攻む
　折から凍る二月の
　二十二日の午前五時

二、命令下る、正面に
　開け、步兵の突擊路
　待ちかねたりと、工兵の
　誰れか後れをとるべきや

三、中にも進む一組の
　江下、北川、作江たち
　凛たる心、かねてより
　思ふことこそ一つなれ

四、我等が上に戴くは
　天皇陛下の大御稜威
　後ろに負ふは國民の
　意志に代れる重き任

五、いざ此時ぞ、堂々と
　父祖の歷史に鍛へたる
　鐵より剛き「忠勇」の
　日本男子を顯はすは

六、大地を蹴りて走り行く
　顏に決死の微笑あり
　他の戰友に遺せるも
　かろく「さらば」と唯だ一語

七、時なきまゝに點火して
　抱き合ひたる破壞筒
　鐵條網に到り着き
　我身もろとも前に投ぐ

八、轟然おこる爆音に
　やがて開ける突擊路
　今わが隊は荒海の
　潮の如くに躍り入る

九、あゝ江南の梅ならで
　裂けて散る身を花と成し
　仁義の軍に捧げたる
　國の精華の三勇士

一〇、忠魂淸き香を傳へ
　永く天下を勵ましむ
　壯烈無比の三勇士
　光る名譽の三勇士

――口繪――

◇學習院御入學の照宮樣

照宮内親王殿下には愈々今年御八歲の學齡に達せさせ給ふたので四月八日より女子學習院前期一年に御入學遊ばされ、その前、宮城内舊本丸跡に御造營あらせられた宮樣の新御殿『吳竹寮』から每日**ランドセル**を背負はせ給ひ、お可愛らしき御洋裝で御通學遊ばされてゐる。此の御寫眞は御入學前の記念御撮影に係るもので宮内省よりお貸下げになつたものである。

◇凱旋したる海軍の將星

上海の海に、陸に、はた又空に海國日本男兒の精華を發揮したる我が海軍の將星、第三艦隊司令長官野村吉三郎中將、第三戰隊司令官堀悌吉少將、第一航空戰隊司令官少將加藤隆義子、第一水雷戰隊司令有地十五郎大佐、第二水雷戰隊司令井上繼松少將等は輝く武勳を身に負ひて三月二十四日帝都に凱旋東京驛頭、歡呼萬雷の如き中を宮中に參内、天皇陛下に拜謁仰せつけられ豐明殿に於て賜餐の光榮に浴した。寫眞は當日海軍省玄關に於て撮影したるもの、左より堀第三戰隊司令官、末次第二艦隊司令長官、有地第一水雷戰隊司令、大角海相、加藤第一航空戰隊司令、井上第二水雷戰隊司令である。

◇聯盟委員に花束を贈る

國際聯盟支那調査委員の一行は上海への途上、日本に立寄り滯在凡そ二週間、四月十一日午後三時半神戸解纜の**プレジデント・アダムス**號に搭乘、上海に向つた。寫眞は神戸出帆の當日、兵庫縣婦人會の令孃達美しい振袖姿で、一行に對し心を籠めた花束を贈呈しつゝある有樣である。

◇眞茹驛附近の敵軍陣地

三月二日我軍の猛烈なる總攻擊に逢ひ、敵の司令部を置かれたる眞茹一帶は蜂の巢をつついた如き大混亂に陷つたが、是に對し我が前原旅團は二里餘の道を僅か四十分の强行軍にて午後五時過ぎ眞茹に殺到、忽ち眞茹驛及び眞茹無線電信臺を占領した。寫眞は眞茹驛附近敵の鐵條網及び掩兵壕である。

◇茜涇營攻擊中の德島隊

三月一日早朝揚子江本流沿岸七了口に上陸したる前通寺第十一師團の主力は同日午後茜涇營の敵を攻擊し、午後五時全く是を占領した此の戰鬪に於て我損害將校以下四名、負傷一名、敵の遺棄せる死體約七十であつた。寫眞は今や敵陣攻擊眞最中の我が德島〇隊である。

◇楠木正成湊川に奮死す

（伊藤鷺城畫伯筆）

延元元年五月二十五日、楠木正成手兵僅かに七百を以て兵庫の湊川に足利兄弟五十萬の大兵を邀へ戰ひ今や縱橫奮擊するの圖である。

國際聯盟支那調査委員一行へ花束を贈る

武勲赫々帝都に凱旋したる海軍將星

眞茹驛附近の敵の塹壕と鐵條網

……傷も癒えて……

滿洲方面の戰鬪に傷ついた弘前旅團の勇士等は東京第一衛戍病院に於て療養中のところその内四十四名は大體回復して近く原隊に歸還することとなつたので三月十六日自動車を連ねて外出靖國神社、乃木神社等に參拜市內を見物した。寫眞は靖國神社にて

爆彈三勇士の摸擬戰

二月二十二日上海附近廟行鎭の敵陣地へ對し我步兵の突擊路を開鑿すべく爆藥筒に點火して鐵條網中に身を投じ己が五體を粉碎すると共に天晴れ所期の目的を達成した久留米下元〇團の工兵、江下、北川、作江等所謂爆彈三勇士の壯烈鬼神を哭かしむる行爲は今や全世界に喧傳せられて我が忠烈勇武なる軍人の名譽を彌が上にも發揚しつゝあるのであるが、陸軍に於ては此の三勇士の壯絶言語に絶する行動を永久に記念し記錄に殘さんが爲め三月十六日廟行鎭の現場に於て實戰その儘の摸擬戰を行ひ是を映畫に撮影した。即ち當日十數名の義勇隊員及び兵士は戰

利品の敵の鐵兜や軍服を身に着けて即席の十九路軍に扮し、廟行鎮北端の**クリーク**に沿ふ塹壕中に潜み、その前面三十米突には素早い動作で敵前散兵壕を掘つた我が○兵隊が肉薄し、第一回の工兵爆破隊は當時その儘、東島少尉の號令一下銃火を潜つて鐵條網下に突進、爆破を行ひ、更に鋏を持つた決死隊が躍進したが途中でばた／＼敵彈に倒れ、いよ／＼爆彈三勇士が猛進、口火をつける一秒二秒、轟然天に沖する黑煙と共に三勇士に象どつた三個の人形が粉微塵に引きちぎられて十數米も吹き飛ばされ凄壯無比のその最期が如實に再現されたのである。寫眞前頁の右上は當日現場に樹てられた爆彈三勇士の記念碑の前に立つた右より馬田軍曹、東島少尉、松下大尉である。又左下は十九路軍に扮した我兵。後頁の右上は三勇士にかたどつた人形。左下は當日爆發刹那の壯觀である

戰ひ濟むで一休み

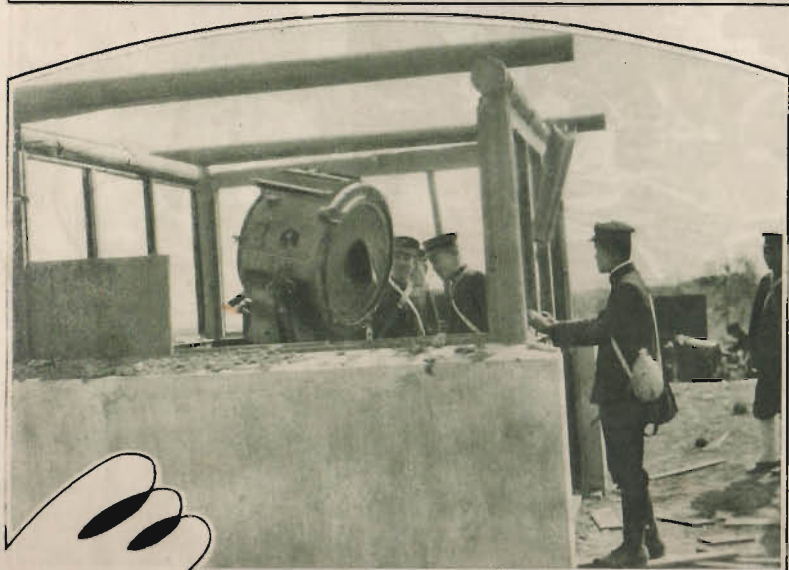
停戰命令一たび下つて我が將卒も此のところ骨休めの狀態である。寫眞左上は懷しい故國の便りを受けて思はずほゑむ勇士達。右下は眞茹に於ける我兵士が支那人力車を引張つて來て子供のやうに戯むるところ左下は大激戰の跡なる江灣鎭のクリークに筏を浮かべ麗かな春の日ざしに、無邪氣にはしやぐ兵士達である

陣中の楽しい炊事

三月二日全戰總攻擊の命が下つてから二日間殆ど食事らしい食事を攝るひまもなかつた我兵士達、戰勝の後の朗らかな氣分の中に暖い御飯を炊いて喜んでゐる。寫眞の右上、柳芽を吹く小川の物洗ひ。左上、久方振に飯盒を並べて食事の仕度同下、いましも暖い御飯を炊き上げた炊事當番である

我軍の占據したる呉淞砲臺

上海の黄浦江が楊子江の本流に合する三角地點に設けられたる呉淞砲臺は最近獨逸の技師を聘して堅固に改造し砲約二十門を裝備して上海の咽喉を扼してゐたが我が軍艦及び海軍航空隊の砲撃爆撃に依り三月三日早朝遂に陥落し無殘にも破壊せられたる砲臺上には日章旗翩翻としてひるがへることとなつた。寫眞は孰れも

該砲臺破壞の慘狀で、前頁の右上は空軍の爆擊に依り碎かれた砲壘。左上は遺された敵の二十**サンチ**砲彈。右下は占據した我軍の萬歲又後の頁の左上は我が海兵等の萬歲。右下は砲臺視察中の安保海軍大將。左下は砲臺に取付けられたる敵の**サーチライト**である。因に該砲臺には約四千の敵兵が籠つてゐたが、三月二日我が海軍の猛攻擊に逢ひ是等の兵は豫め設けられたる地下間道に依り悉く劉河方面に遁走したと謂はれてゐる

爆破占據の南翔驛

三月一日總攻擊令下ると共に宛ら無人の境を行くが如く次ぎから次ぎへ敵の陣地を占據したる皇軍の武者振りは實に目覺しき限りであつたが殊に敵が最後の防禦陣地と恃みたる大場鎭の陷落と共に楊子江本流七了口に上陸したる第十一師團の

側面攻擊は敵の全軍大崩れの因となり、三日午前八時第九師團の主力は敵軍約三萬の集中しゐたる南翔を占據し堂々是に入城した。寫眞の左上は我空軍の爲めに爆擊されたる南翔停車場の慘狀。右下は故林聯隊長の跡を襲ひ金澤○聯隊長として奮戰南翔の一番乘をなした時澤少佐が入城直後祝盃を擧げつつある有樣である

陸海軍戰死者慰靈祭

昨年九月日支事變突發以來、皇軍名譽の戰死傷者は陸海軍を通じて旣に約四千名の多きに上つたが就中上海事變に關する陸軍の死傷者は三月四日現在にて戰死二四五名、戰傷一五九五名。又海軍は戰死一三二名、戰傷六七八名となつてゐる。寫眞右上は三月中旬上海中部少小學校に於て執行せられたる同地に於ける派遣各部隊戰死者慰靈祭に參列したる白川軍司令官が弔詞を朗讀しつつある有樣。又左下は同月中旬上海新公園に於て擧行せられたる海軍戰死者の慰靈祭全景で兩日共參列者雲集し非常な盛觀を呈した

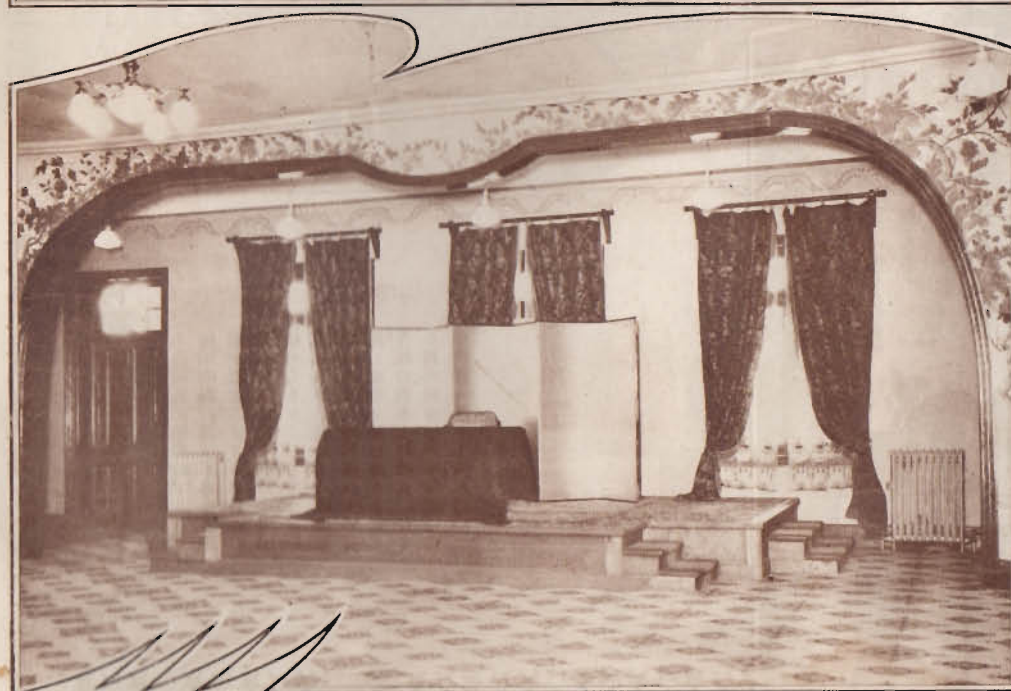
戰跡を視察する海陸の雄將

三月一日早曉より開始せられたる上海の我軍總攻撃に支那側は堪へ得ず、全線一齊に崩れ立ち、勢ひに乘じたる我軍の急追擊は忽ち大場鎭眞茹等の第二陣地を占據し三月三日遂に南翔嘉定の線に進出すると共に、一方閘北方面の海軍陸戰隊は二日正午過ぎより猛攻擊を行ひ、午後四時半共和路に進み、午後五時遂に完全に閘北一帶を占據し、交戰開始以來月餘に亙り相對峙した閘北の地を全く手中に收めたのである。寫眞右上は總攻擊の偉勳金澤師團の植田中將が今しも幕僚を從へ眞茹附近の戰跡を視察しつつあるところ。左下は海軍陸戰隊の指揮官植松鬼少將が憶ひ出多き閘北の戰跡を巡視しつつある有樣である

停戰會議を前にして

上海附近に相對峙する日支兩軍の間に再び不祥なる事態を惹起させざるが爲めの停戰會議は愈々三月中旬開始せらるゝこととなつたので我海軍に於いては同地派遣艦船並に陸戰隊將士の慰問と視察を兼ね海軍として今後の根本方針確立に資する爲め前海相軍事參議官安保清種大將を上海に特派することとなり同大將は三月五日東京發同地に向ひ、白川派遣軍司令官、野村第三艦隊司令長官、重光公使等と會見協議を遂げ滯在約二十日間にして歸京した。寫眞右上は軍艦『出雲』上の重要會議で前列左より重光野村、安保、植松、村井、後列島田、鹽澤の諸氏。又左下は軍司令部に於て今後の問題に關する重要會議後の白川、安保兩大將である

滿洲新國家建國大祝典

世界の歴史上に記念すべき滿洲新國執政溥儀氏の就任式は三月九日午後三時から新都長春市政府内金色の光まばゆき大廣間に於ていと壯嚴に擧行せられた。定刻、新政府の各大官を始め我が内田滿鐵總裁、本庄關東軍司令官等設けの席に着くや、溥儀氏夫妻は侍從の先導にて式場に入り、國璽捧呈の式を行ひ、次で張景惠氏執政推戴の辭を陳ぶれば執政是に對して答辭を述べ、滿場嚴粛裡に宣誓及び宣布を發し、終つて内田滿鐵總裁外賓を代表し

て祝辭を呈し、元首又答辭を述べて茲に意義深き執政就任の大儀を終り『滿洲國萬歳、元首萬歳』の聲は一齊に湧き起つた。寫眞前頁の右は最近の執政溥儀氏。左上は式後の記念撮影で中央溥儀氏、左へ本庄司令官、内田總裁、森司令官、又溥儀氏より右へ張海鵬（軍服）鄭孝胥、張景惠の諸氏である。同下は就任式場、又後の頁の右上は就任式の前日卽ち三月八日執政夫妻長春驛到着の盛觀。同下は長春に於ける森獨立司令官の建國祝賀觀兵式左は新國家國旗揭揚式で、旗の右側に立てるのは執政溥儀氏である

北滿で見た二つの情景

（右下）海拉爾は東支線中に於ける非常に豊富な野菜の生産地である。今しも街の踏切を越えて追ひかけて來た**ロスケ**の青物屋が、支那人の百姓を呼びかけて野菜の値段を小ッ酷く値切つてゐる（**左上**）**ハルビン**の郊外で小やかな、そして平和な日暮しをしてゐる**ポーランド**人の一家庭。歐洲大戰の頃子供が日本に救濟されたといふので大の日本びいき。牛を飼ひ鷄を養つて卵や肉や野菜には不自由しない、貧しいけれど極めて長閑な生活である

南滿の農家と奉天驛頭

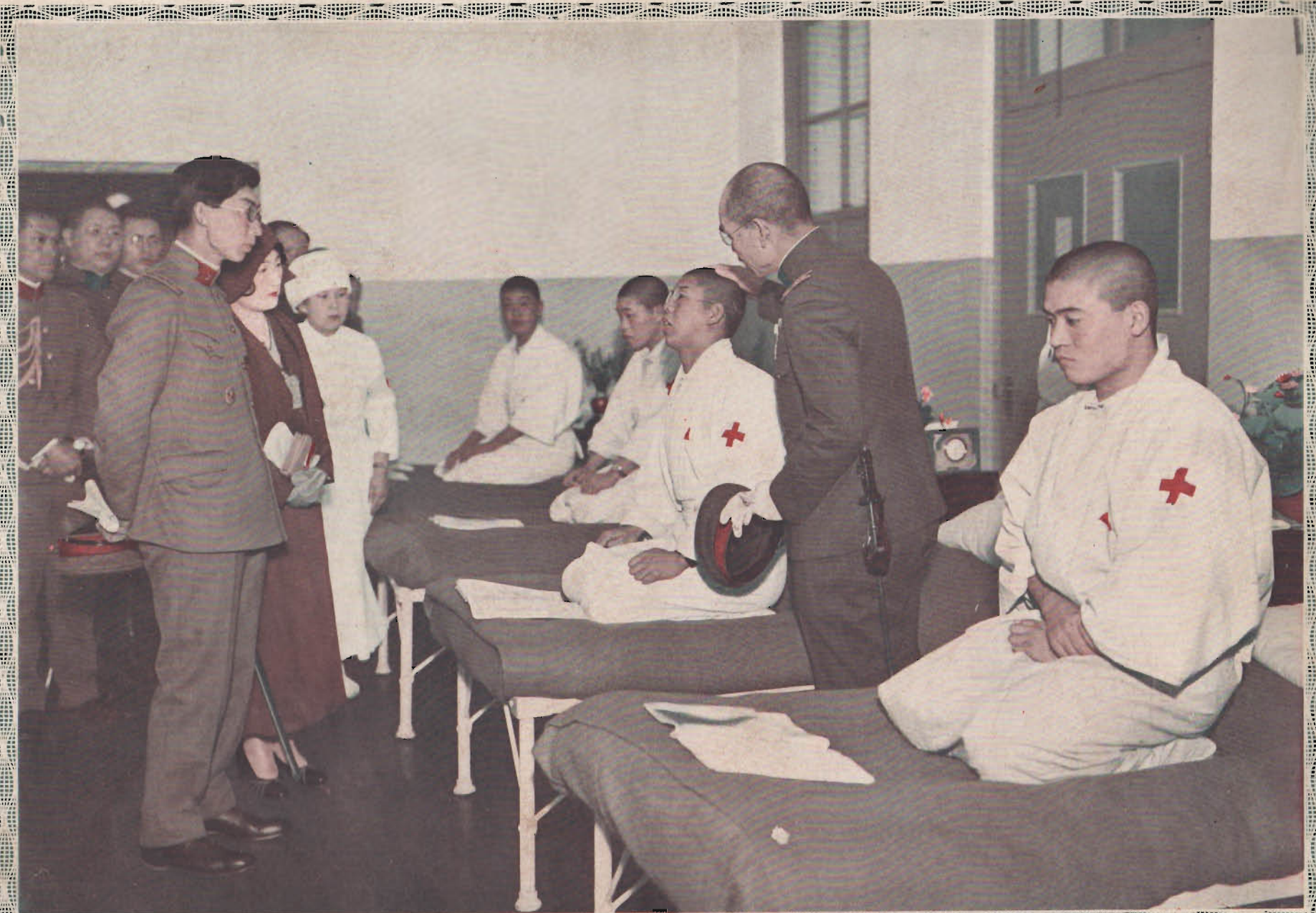
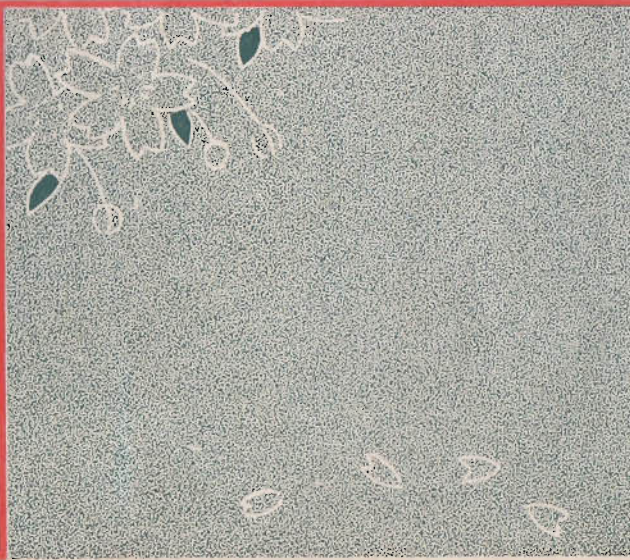
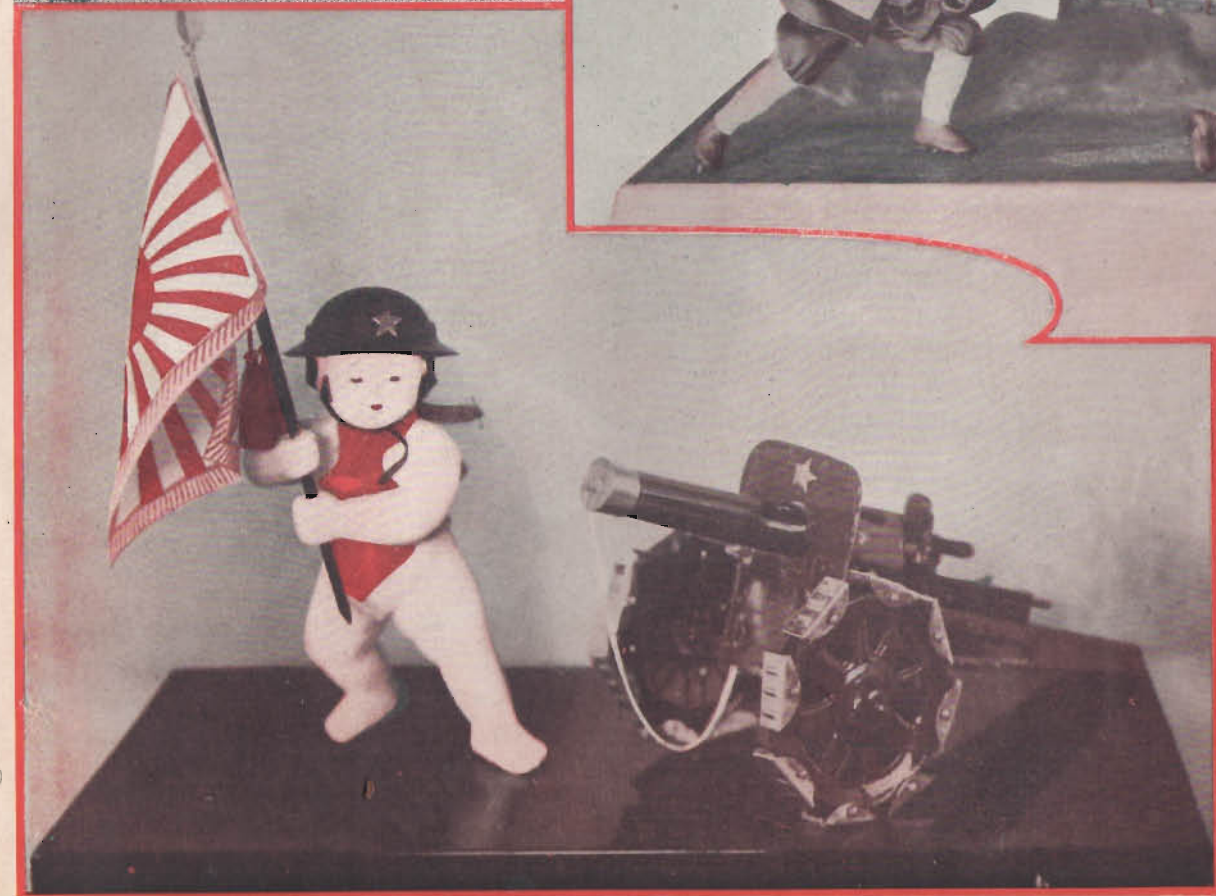
（右下）滿洲に於ける下層農民の生活費の內、一日の食料費はたつた九錢で事足ると言はれてゐる寫眞は南滿洲に於ける一農家の情景で、前庭の高粱畑は既に秋の取入れを終り靜かに冬を待つてゐる農民の安らかなさうして簡易な生活振が寧ろ美望の念を起さしめる。（左上）奉天驛頭の賑ひで露西亞式の幌馬車、英吉利風の箱馬車日本式の人力車、又支那流の蒲鉾馬車など雜然と入り亂れて一奇觀を呈してゐる

滿洲小學校

事變突發以來約半歳に亙り休校してゐた奉天市内十四小學校を始め各省小學校は大同元年三月一日新滿洲國建國の日を期して一齊に開校され、兒童達は嬉々として登校しつつある。寫眞は奉天に於ける第一小學校の始業振りで黑板の上にも新國家の氣分が横溢してゐる

秩父宮兩殿下の陸軍衛戍病院御成

秩父宮同妃兩殿下には此のたびの滿洲事變及び上海事件等に傷ついた我が陸軍部隊傷病將士御慰問の爲め岡田御附武官を隨へさせられ、三月十四日午後五時近く突然牛込戸山町の陸軍第一衛戍病院に成らせられた。病院に於ては此の難有き御沙汰に感激し院長不在の爲め武藤一等軍醫正代つて御案内申上げた。兩殿下には收容中の傷病兵百九十八名を親しくその病床に御慰問あらせられ、御慈愛溢るゝ暖き御言葉を賜はり、一々、負傷當時、その後の經過など御下問遊ばされ、一同に對し宮家御紋菓を賜はり約二時間にして御殿に還御あらせられた。寫眞は當日御慰問中の兩殿下である。

勇ましい軍國情景◆◆◆（其一）五月人形

滿洲事變に引續いての上海事變、皇軍一たび蹶起すれば張學良の正規軍も乃至十九路軍の精鋭も、それこそ眞に鎧袖一觸、あまりに脆い敗退振りは少々呆氣ない感がないでもないが、それでも獅子は兎を搏つにその全力を以てする譬の通り陸海空軍互ひに連繫しての水も洩らさぬ攻撃振りは、我が國軍の威力を遺憾なく發揮したるもので、勝報櫛の齒を引くが如くに至る毎、國を擧げての歡びは近頃素晴しい軍國氣分の現はれであつた。寫眞は尖端的な人形師の拔目のない指の先きから捻り出された際物の五月人形で、上段は大評判の『爆彈三勇士』、下段は『戰捷金時』である。

勇ましい軍國情景　(其二)戰爭ごつこ

飛行機に爆彈、**タンク**に塹壕、裝甲列車に裝甲自動車、鐵條網に爆藥筒、手榴彈に迫擊砲、鐵兜に防彈服と日露戰爭當時の子供達が夢にも知らなかつた近代戰のあらゆる兵器を此頃の子供達は悉く自分のものにしてしまつた。御覽なさい、銀座の**ペーブメント**だつて今は必ずしも**モガモボ**のみの獨壇場ではなくなつた。折柄の春の陽光に厳めしい鐵兜のてつぺんをきら〳〵と光らしながら斯うした可愛い少年兵士が意氣揚々と歩いてゆく。

鎭守の宮の境内では石垣を胸壁にして前線部隊の一齊射擊だ。何と白熱した軍國氣分、是で相手が今少し齒應へのある國であつたら………。

青山齋場の追悼會に參列したる三勇士の母

二月二十二日上海附近廟行鎭に於て爆藥筒を抱いた儘、敵の鐵條網中に突進し、火藥の爆破と共に五體を微塵に粉碎、茲に歩兵の突撃路を開鑿して我軍を勝利に導きたる『壯烈爆彈三勇士』の母、江下たき（五二）作江まつ（五六）北川まつ（六五）の三人は付添ひの人々を合せて一行十三名、三月十二日東京に入り、明治神宮、靖國神社等に參拜、陸軍省に於ては荒木陸相の手を經て、畏き邊りよりの祭粢料を拜戴し、青山齋場の追悼會、築地本願寺の法要等に參列、各方面より甚大なる同情と感激を浴せられ、日夜、感涙に咽びつつ數日滯京歸郷した。寫眞は三月十二日の午後、大谷松竹社長、及び俳優市村羽左衞門、尾上菊五郎兩氏等を發起人とする青山齋場に於ける三勇士追悼會に參列したる三勇士の母達で、右より作江、北川、江下の順、又左端は菊五郎氏、右端は大谷氏、その次は羽左衞門氏である。

◇◇◇ 茜涇營攻擊中の我が徳島○隊 ◇◇◇

女子學習院へ御入學遊ばされたる照宮內親王殿下

帝國海軍の偉容◆◆◆潜水艦と潜水母艦

五月二十七日の海軍記念日は近づいた。今より二十七年前、東郷聯合艦隊司令長官が『皇國の興廢此の一擧にあり』と全艦隊を鼓舞したあの壯烈無比な日本海大海戰の當時に於ける帝國の海軍と今日のそれとを比較すれば正に夢のやうな感じがある。言ふまでもなく日露戰役當時に於ては飛行機もなく潜水艦もなかつた。從て當時の戰術は極めて簡單であつたが今日は非常に複雜になつてゐる。殊に潜水艦の出現は海軍の攻防兩戰に根本的の變革を來したと言つても好いのである。玆に掲げた寫眞は我が獨創的な一萬噸級の巡洋艦と共に列强のそれに比し一段の優秀さを示す潜水艦及び潜水母艦で、潜水母艦は潜水艦がその本質的の條件に基き非常に窮屈に出來てゐる關係上、それら乘組員の活動を便利にする爲めに出來たやうなもので、現在は『韓崎』『駒橋』『迅鯨』『長鯨』の四隻があるのである。

◆◆◆先哲の面影とその遺跡◆◆◆（其五）弘法大師

弘法大師卽ち空海上人は眞言宗の高僧で高野山の開祖である。寶龜五年讃岐國多度郡屛風浦に生れ姓を佐伯と呼び幼名を眞魚と稱した。十八歲にして京師に出で二十歲の時僧勤操に從つて剃髮佛門に入り、延曆十四年奈良東大寺の戒壇に登つて具足戒を受け、同二十三年三十一歲の時入唐靑龍寺の惠果和尚から專ら眞言、密敎兩部の祕奧を相承し、大同元年歸朝、弘仁七年高野山を開いて金剛峰寺を建て、同十四年朝廷より京都の東寺を賜はつた。空海は正に古今の英才、その著作二百餘部あり、單に眞言宗の開祖としてのみならず、修辭、書法、繪畫、彫刻等に於ても其技一世に冠絕し、又一般庶民の子弟を集めて敎育の道を開きたる外有名なるいろは歌の創制、讃岐萬能池、大和益田池の築造等、その功績萬代易らぬものが尠くない。承和二年三月、高野山奥の院に於て遷化した。享年六十二歲である。延喜二十一年醍醐天皇より弘法大師の諡號を賜はつた。寫眞右上は大師の像。左上は高野山の西塔及び鐘樓。下段は高野山奥の院への參詣道である。

日本誠忠十二鑑（其五）

『湊川の血戰』

（伊藤鷺城畫伯筆）

湊川合戰 鷺城

匪賊を咬み倒したる殊勳の軍用犬

去る三月中旬、奉天北陵海棠花園附近に於て我が軍用電線が暗夜に乗じ屡々何者かに切斷破壊されるので、獨立守備第二大隊宍戸軍曹は部下を指揮して警戒に餘念なかりしところ、同月二十日午前四時二十分頃、又もや同所に於て電線切斷中の匪賊二名を同隊の軍用犬**ジヨン**、**エス**、**ドル**の三頭が發見、猛然是に跳び蒐り、逃ぐるを追ひて百米餘追跡したのを、宍戸軍曹が氣付き急遽現場に駈けつけた時は、既に匪賊は二名共、軍用犬の爲め咬み倒され氣息奄々となつてゐたので難なく是を逮捕した。寫眞は卽ち殊勳の軍用犬と前列中央宍戸軍曹、後列右端は貴志隊長である。

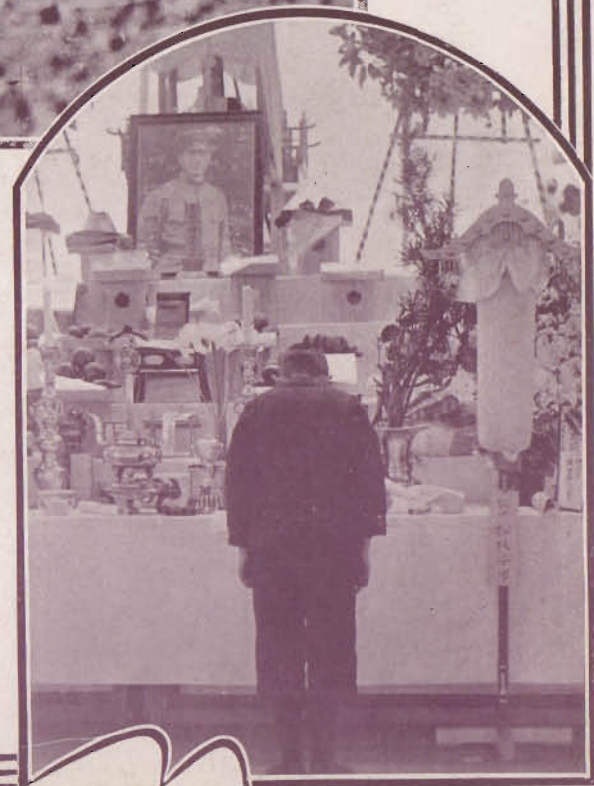
爆彈三勇士後聞

上京せる三勇士の母（右より作江、江下、北川）

江下伍長の村葬

廟行鎭に於ける三勇士模擬戰

二月二十二日拂曉、上海附近廟行鎭の敵陣地攻擊に當り、その鐵條網を破壞せんが爲め己が身を犧牲にして壯絕無比の戰死を遂げたる作江、北川、江下の三工兵は孰れも特に伍長に任ぜられ、感狀を付與され近く又破格の金鵄勳章を授與せらるることになつてゐる。寫眞の右上は三勇士が壯烈なる爆死を遂げたる廟行鎭の現場。右下は三月二十八日三勇士の一人江下武伍長の鄕里に於ける村葬で、禮拜の少年は伍長出征の日久留米驛にて血染の**ハンカチ**を貰ひたる少年。左上は三月中旬上京したる三勇士の母。同下は廟行鎭現場に於ける三勇士の模擬戰で今しも爆藥炸裂したる凄絕の光景

未亡人幹子さん

遺兒瑞子さん

武士の恥辱なりと痛感したる少佐は、上海兵站病院に於て傷部加療中公私一切の事務を處理し、遺書十四通を認めたる後、三月二十八日己が隊長林少將の四七日忌、戰歿部下將校の五七忌當日、嘗て自ら奮戰力闘せる思ひ出深き戰場を訪ひ**ピストル**を以て從容自殺を遂げたのであつた。寫眞は故空閑少佐と愛妻の身を案ずるその遺書、及び遺族の人々である。

空閑少佐近影

空閑少佐武士道の爲に死す

金澤第九師團步兵第○聯隊第○○隊長空閑昇少佐(四六)は去る三月二十日上海江灣鎭附近の敵を攻撃中、同日夕刻約三千名に及ぶ優勢なる敵の逆襲を蒙り同○隊は全く孤立無援の窮境に陷り、たるが性剛毅の少佐は毫しも怯まず、自ら陣頭に立つて勇戰力鬪を續け爾來二日間全員殆ど一食をも攝らず而も死傷相次ぎ少佐も亦遂に胸部に貫通銃創を蒙り、人事不省に陷りたる折柄、敵兵殺到し來つて昏倒中の少佐を收容し去つた。かくて少佐は南京に拉致され加養中、我官憲の斡旋に依り三月十六日上海に歸還したが、假令重傷人事を辯ぜざる際とは雖も苟くも帝國の軍人として敵軍に收容せられたるは飽まで

上村參謀殿

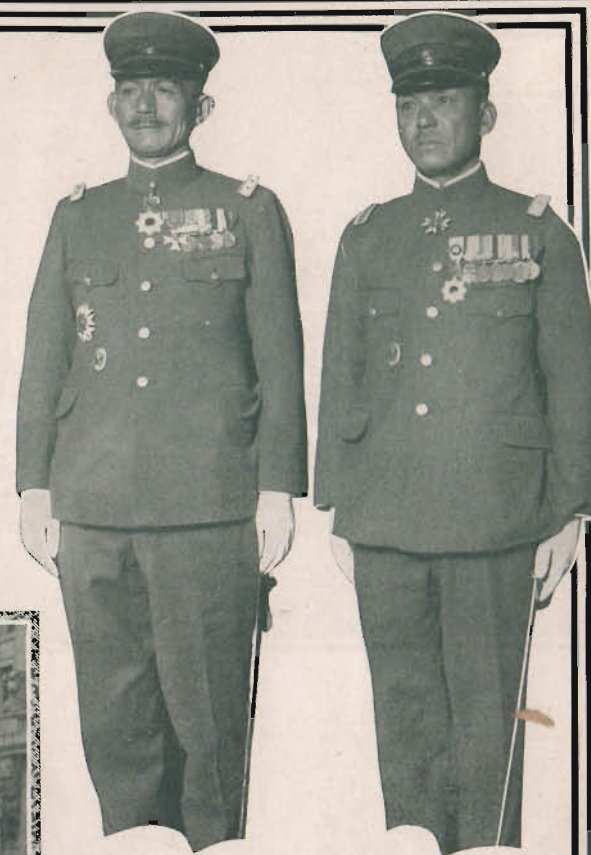
空閑昇

一、不肖の妻ハ目下妊娠中にて本月末頃出産の予定ニ付き出産後まで[illegible]の自決せること秘し發表見合せ適當の時機ニ發表相成度し

妊娠中の夫人を案ずる少佐の遺書

上海西本願寺に到着せる少佐の遺骨

陸海軍の戰利品

寫眞は孰れも上海及び滿洲の戰場に於て鹵獲分捕したる陸海軍の戰利品である。右上は上海に於ける我が海軍陸戰隊の手に依り各方面の戰線に於て捕獲した十九路軍の武器、軍服、軍帽から雨傘、鐵兜、薙刀、喇叭、水筒を始め紅顔の美少年達に依て組織された學生義勇軍の軍旗たる靑天白日旗等二千餘點が三月二十五日海軍省に到着したる有樣。左上は三月二十八日から陸軍省内に陳列せられたる上海に於ける我陸軍戰死者の遺品及び鹵獲品で、林大八少將の遺品、及び戰死者の血染の軍服、三勇士の爆破したる鐵條網の破片、吳淞砲臺其他に於ける各種戰利品等皇軍大奮鬪の跡を物語るもの。又左下は三月二十九日張學良の命を受けて滿洲新政府覆滅を企み奉天の兵工廠を襲ひ我軍の爲め遂に徹底的に潰滅せしめられたる匪賊等が當時奉天を暗黑街たらしむべく撫順よりの送電線を切斷する目的の爲め携へゐたる電線切斷器具其他である

厚東下元兩將軍の帝都凱旋

上海に出動して敵の十九路軍を遺憾なく膺懲し、輝く武勳を身に負ひ、三月末內地原隊に歸還した善通寺第十一師團長厚東篤太郎中將及び久留米第二十四旅團長下元熊彌少將は、長き邊りよりお召の御沙汰を拜し、四月四日午前九時凱旋將軍として帝都市民の熱誠なる歡迎を受け入京した。當日早朝、東京驛の內外を埋め盡したる各團體及び一般市民等は、兩將軍の乘れる無蓋の自働車を圍みて天にも響けと萬歲の叫びを揚げ、白熱的感激と昂奮とに驛の廣場は燃え上つた。寫眞の右上は當日是より宮中に參內せんとして九段偕行社の玄關に現はれたる左厚東中將、右下元少將である。又左上は三月下旬下元旅團の將卒等上海發の河南丸に乘組み內地へ凱旋せんとするところ。同下は兩將軍入京當日の光景で先頭の自動車は厚東中將、三臺目は下元少將である

下元旅團內地へ凱旋せんとす

參內せんとする兩將軍(左)厚東中將　(右)下元少將

兩將軍の帝都凱旋

停戰會議

去る三月一日上海に於ける我が海陸空軍の總攻擊開始と共に支那軍は全線に亘つて總崩れとなり同月三日には昆山嘉定の線にまで追ひ詰められたので、我軍は支那軍に對する最初の要求、卽ち二十**キロ**撤退が今や實現された形となりたるを機とし同月中旬より上海に於て彼我兩國代表に英米佛伊四國公使を加へたる停戰豫備會議を開くこととなり幾多波瀾を閱したる後、同月下旬よりいよ〳〵本會議に入り同時に軍事專門委員會を開催して協議するところありたるが、會議の最難關たる日本軍の撤收地域問題及び撤收期日問題に關して日支兩代表は每回徒らに激論を重ぬるのみにて實質的に協議幾干も進捗せず其間屢々會議は決裂に瀕し、此稿〆切の四月九日に至るも協定成立の見込立たず前途暗澹たるものがあつた。寫眞の右は英國總領事館に於ける本會議。左上は軍事小委員會である

（**前列右より**）（二人目）田代少將、阿部中佐、喜多大佐、梶原通譯、（**後列**）郭德華、黃强、英國武官、佛國武官

（**右より**）米國公使、英國公使、郭泰祺、戴戟、（一人おいて）殺汝耕（一人おいて）林出書記官、植田師團長、島田第〇艦隊參謀長、重光公使、水野少佐

復興途上の大上海

本年一月二十八日の夜、暴戻なる支那軍の挑戰に依り彼我兩軍の間に戰闘が開始せられて以來、さしも東洋第一の歡樂都大上海は文字通り修羅の巷と化し去り、日夜に絕えぬ砲聲、銃聲、飛行機の爆音、爆彈投下の物凄い響に三百萬市民は生きた心地もなかつたが勇武絕倫の我軍は遂に能く十九路軍を擊滅して再び起たざる大痛擊を加へ是を楔機として今まで假死の狀態にあつた大上海は恰もその郊外江南の戰跡に、春の陽光を浴びつつふくよかな綠草が芽を吹くやうに、去る三月上旬以來、一戸々々と商店が開かれてゆき、上海の銀座通りと謂はる南京路に於ては大百貨店も復舊し、虹口の日本街では吳淞路が眞先きに蘇生し、其他の街々も相次いで舊態に復し、**カフエー**もぼつ〱店を開け、西洋人の經營する**シネマ**常設館もそろ〱開館し始めた。尙又、四月一日からは市内の支那人各商店は市民聯合會の決議通り一齊に開始することとなり南京路其他の目貫の通りも開業して市中は除々に活氣を呈して來た。寫眞の右上は上海の復興は先づ**エロ**からと許り、停戰と同時に内地から舞戻つて來る白粉の女達が今しも碼頭に上陸したるところ。又左下は、停戰後、在留邦人慰安の爲め吳淞路の**キリスト**福音協會内に開催せられたる我海軍々樂隊の大演奏會

續々上海に舞ひ戻つて來る白粉の女達

在留邦人慰安の海軍々樂隊大演奏會

伯林留學生等地圖を開いて上海を語る

コロムビヤ大學支那留學生等の排日大デモ

桑港の支那夫人等軍人慰問品を製作す

在外支那人の抗日振

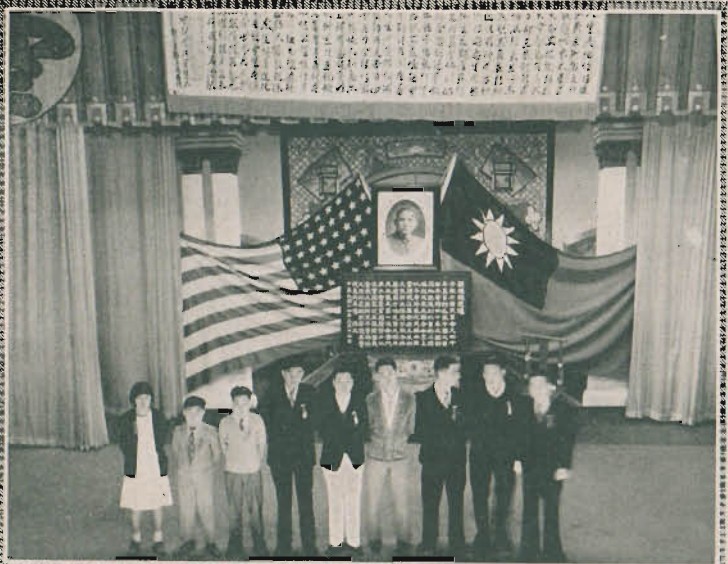
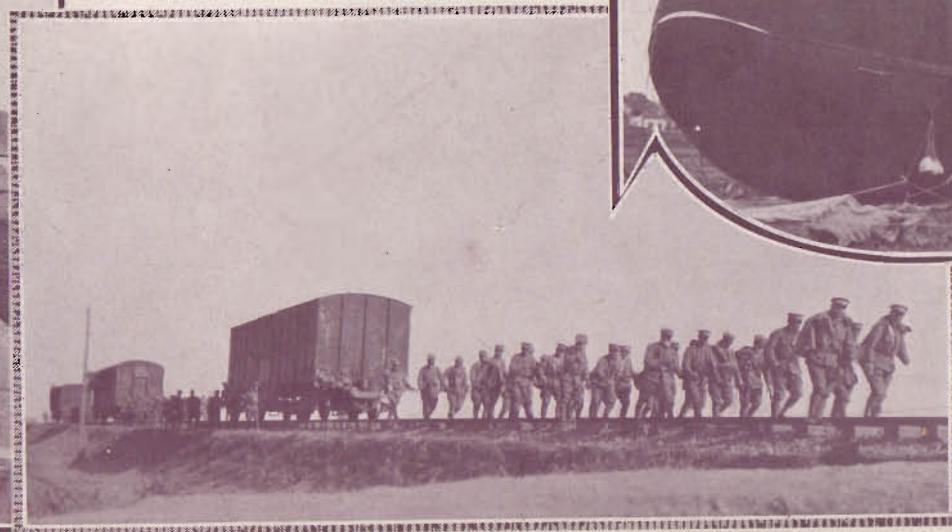
滿洲事變に引續いての上海事變で、支那人の排日抗日感情は愈々縦々高調された感があるが、殊に歐米各地に於ける支那人の抗日運動は日を趁うて熾烈を極むるものがある。寫眞は二三その例を示せるもので前の頁の右は米國サンフランシスコに於ける在留支那人の間に組織された愛國クラブの夫人連長期抗日を叫びつつ上海戦線の自國兵士に贈らんが爲め慰問の品々を製作しつつあるところ。左上は獨逸伯林に於ける支

桑港の支那美人連、化粧代を節約して自國の軍資金に投ぜんとす

桑港、日貨排斥大演説會の演壇

シカゴの支那人、軍用飛行機を練習す

那人**クラブ**の留學生連、支那の防衞に關する建議書を洛陽政府に向つて發送すべく會合し、地圖を披いて上海を指示しつつ孰れも悲壯の面持を表現せるところ。同下は三月一日米國**ニューヨーク**に於て**コロムビヤ**大學在學中の支那學生及び少年團連排日抗日の**スローガン**を掲げて大**デモ**の光景。後の頁の右上は桑港の支那美人連が化粧代を節約して自國の軍資金に投ぜんとするところ。右上は桑港に於ける支那青年主催の日貨**ボイコット**大演説會の演壇。同下は米國**シカゴ**に於ける支那青年等、師に就て軍用飛行機の練習に從事しつつある有様である

（右上）四日一日から同二十四日まで開催された大阪新町浪花踊りは、時節柄日支事變を取入れて見物を喜ばせた。寫眞は滿洲の氣分を表はした一場面の『春鶯囀』である。（同下）三月上旬上海に於ける我軍の新占據地嘉定に於て敵狀を偵察する爲め繫留氣球を飛揚せんとしつゝあるところ。（中下）南翔に駐屯中の宇都宮○○團の輜重兵が黃渡、南翔、眞茹方面の運輸聯絡の爲め眞茹より南翔へ向け貨車を曳きゆく有樣で、○團は右の三ヶ所に鐵道運輸事務所を設け十五噸、積載貨車五輛、臺車二輛を運轉してゐるのである。（左上）三月中旬以來上海に於て開催中の日支停戰會議も支那側頑迷の爲め却々圓滿解決を見るに至らず、前途は極めて危ぶまれてゐる。寫眞は英國**ランプソン**公使と我が重光公使が人を避けてのひそひそ話である。（同下）南翔方面、戰ひのあとの靜けさ、**クリーク**の水もぬるんで川面に映る步哨の姿も何となく長閑である。

（右上）三月九日滿洲の新都長春に於て執行せられたる同國建國、執政就任式は滿洲空前の盛典で當日は長春、奉天を始め各都市を擧げて此の新樂土の創建を壽ぎ非常な賑ひを呈した。寫眞は當日奉天に於ける建國祝賀祭典に飾られたるポスターの一つである。（同下）三月三日停戰命令下つて上海戰線の我軍將士は執れも俄かにのんびりした氣持になり洗濯をしたり手紙を書いたり陣中の閑日月に轉た春日永きの感を禁じ得なかつた。寫眞は最前線の兵士等が今しも故郷への便りを認めつつあるところ。（中上）日支事變に刺戟され東京の名題俳優、花柳界の紅裙連など千二百餘名が大擧して國民飛行倶樂部に入會したので長岡將軍、新橋藝妓の代表者に會友章を傳達しつつある有樣。（同下）國際聯盟の支那調査委員一行が三月二十一日江灣鎭の戰跡視察中の光景。（左）上海英國總領事館に於て開催中の日支停戰會議出席の支那代表郭泰祺氏である。

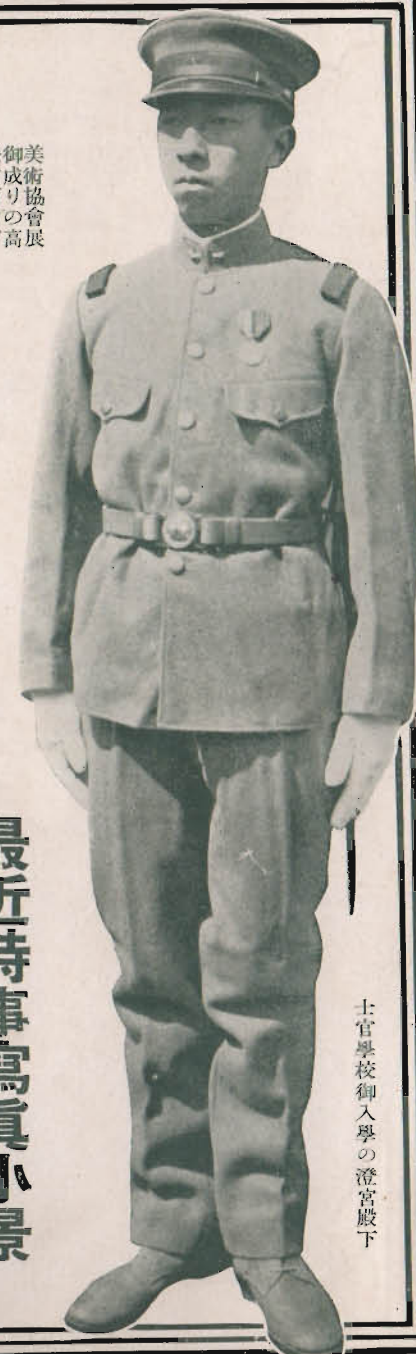
（右上）上海大場鎭の激戰で名譽の戰死を遂げた金澤第〇聯隊長林大八少將の遺骨は、原隊に到着後盛大なる葬儀が行はれ、更に東京に於て陸軍葬が執行せらるることとなり、四月四日東京大久保の自邸に移された。寫眞は卽ちその靈前で右より長男八郎君、次男柏君、三男元夫君及び未亡人である。（同下）四月上旬、東京第一衞戍病院に入院すべく東京驛に到着した上海方面の名譽の負傷者。（中央）三月一日上海方面の戰鬪に殊勳を樹てたる獨立戰車隊の步兵荒山上等兵に對し白川軍司令官の命を受け岡村參謀次長感狀を傳達しつつあるところ。（左上）四月上旬大阪に凱旋したる第四師團管下陸軍衞生部隊に對し寺內師團長訓示をなしつつある有樣。（同下）東京本鄕岡野留吉氏令孃登喜子さん（二三）は同區大圓寺に建立せらるる戰死者供養の觀音像の胎內に般若心經の寫經一千卷を納むべく昨年十月より着手し半年振りにて完成したが、其の長さは實に千十三尺、約二十八町に及ぶといふことである。

東伏見伯の**ピアノ**獨奏

美術協會展御成りの高松宮兩殿下

士官學校御入學の澄宮殿下

新司法大臣川村竹治氏とその一家

新任內務大臣鈴木喜三郎氏參內せんとす

最近時事寫眞小景

（**右**）第三皇弟澄宮崇仁親王殿下には去る三月目出度く學習院リ等科を御卒業遊ばされ、四月より陸軍士官學校に御入學遊ばされた。（**中上**）高松宮兩殿下は四月二日上野の第八十八回美術協會展に成らせられた。（**左上**）東伏見邦英伯は三月三十一日JOAKの『**ハイドン**の夕』に**ピアノ**獨奏あらせられた。（**中下**）司法大臣に任ぜられたる川村竹治氏とその家族達の**ニコ〱**振り。（**右下**）新任內務大臣鈴木喜三郎氏の親任式

▪▪▪最近時事寫眞小景▪▪▪

森鳳聲氏作『武田信玄』

防彈チヨッキの大量製作

（右上）三月二十日より開會の日本美術協會展に出品されたる森鳳聲氏作『武田信玄』（同下）鋼博士として有名なる本多博士創案の防彈チヨッキを日本特殊鋼會社に於て大量に製作しつつある有樣。（左上）三月上旬東京寺島町に發見された八ッ切り屍體事件は搜査全く迷宮に入りたる爲め都下七十九署の選拔刑事連が現場を視察しつつある光景。（同下）四月上旬犬養首相が永田町の伊東巳代治伯を訪問したるところである

寺島バラ〳〵屍體事件の現場視察

犬養首相、伊東伯を訪問す

最近時事寫眞小景

照宮殿下の新御殿『呉竹寮』

帝都北門の大玄關上野驛成る

(右上)宮城内舊本丸跡に御新築あらせられたる照宮内親王殿下の新御殿『呉竹寮』で明治大帝の御製に因み御命名あらせられたるもの。(同下)起工以來十二年を閲し完成漸く近づいた新議事堂内貴族院議場である。(左上)我國鐵道驛中最新の設備を誇る帝都北門の大玄關上野驛は四月三日盛大なる落成式を擧行した。(同下)三月二十七日軍神廣瀨中佐杉野兵曹長等が壯烈なる戰死を遂げたる當日、東京海洋少年團では神田須田町にある同中佐の銅像を洗ひ淨めた。寫眞は當日の光景。

海洋少年團員の廣瀨中佐銅像洗ひ

新議事堂貴族院議場

最近時事寫眞小景

（右上）我航空界に於ける最年少飛行家（三等飛行士村尾誓園君（一六）は來る六月、立川より郷里和歌山へ晴れの郷土訪問飛行を決行することとなつた。**（中下）**豫て屢々本邦來遊を傳へられ而も一向姿を見せなかつた世界的喜劇王**チヤツプリン**氏は愈々五月上旬來朝することとなつた。寫眞前列中央は**チヤツプリン**氏である。**（中上及左下）**近く教祖五十年祭並に立教百年祭を擧行する爲め準備を急ぎつつある大和丹波市町の天理教本部を示したもので**（左下）**は神殿の全景。**（中上）**は教祖の墓である

立教百年祭を迎ふる天理教神殿

我航空界最年少の飛行家村尾誓園君（一六）

來朝せんとする喜劇王チヤツプリン氏（中央）

天理教々祖中山みき子の墓

屋上庭園

●日支の戰鬪行動も一段落を告げた四月號表紙に、長閑な滿洲の春を選ばれたことは編者の大手柄です。四月號の好評。何が彼れ誌をさうさせたか？ 曰く上海事變の滿載。曰く肉彈三勇士、曰く歷史に富む連載物、等々。矢張り編者努力の賜だ。二月號の軍艦旗に就てKKK氏は色調が反對だと批難した。是に對し編者も亦製版者の失態だとアツサリ兜を脫いでゐる。が僕は是を天皇旗と見て尊敬した。果して孰れが眞か？ 此の春は戰爭物に趁ばれて、花の四月櫻を見ることが出來ないものと諦らめてゐたところ『醍醐の花見』を始め『江戶時代の花見』があり『井伊直弼』の雪の櫻田門も亦實に季節に相應しいものであつた。編者大に鼻を高くすべしだ。世は春ぢや……　（名古屋　敬補生）

▲（編者）二月號、軍艦『金剛』の旗を天皇旗と見たと言はれるのは實に餘裕のある態度で床しい。萬事斯ういふやうに一方に偏せず捉はれず、融通無礙の觀照こそ切に望ましい限りである。

●私は此の『歷史寫眞』愛讀者の中で、最も古い讀者だらうと思ひます。さて『滿洲事變特輯號』は本當に結構です。然し私には矢張り『帝國海軍の偉容』が一番待たれる寫眞です。上海事變の折柄、振つて海事思想を普及し、その方面の智識の涵養に力められんことを希望いたします。今後も何うぞ素晴しい軍艦寫眞を掲載して下さい。そして全國に一人でも多く『軍艦ファン』を增して國防智識を普及して頂きたいと思ひます。　（京都　竹露庵主人）

▲（編者）本誌連載『帝國海軍の偉容』に就ては海軍軍令部の特別の御援助を蒙つてをりますから、續々素晴しい寫眞が紹介されることと思ひます。大いに期待してゐて下さい。

●『屋上庭園』いよ／＼盛んなる時、又も一年生として本日より入團させて頂きます。何卒よろしく御指導の程お願ひいたします。早速ですが三月號の內『上海事變』第三の上段右の軍艦『安宅』と左『夕張』とは入れ違ひではありませんか。　（大阪　Y・F生）

▲（編者）その通りでした。訂正いたします。

●『歷史寫眞』の此頃は幾回となく滿洲事變其他の特輯號のみ發行相成居候。それも至極結構には候へ共、是等のみにては何等『歷史寫眞』として無價値にあらずやと存ぜられ候。全然時事寫眞を取除く必要は無之候へ共『歷史寫眞』の本體は斯かる時事寫眞のみに非ざることは多言を要せざる事に候加ふるに斯かる寫眞は新聞其他より容易に得らるるものゝみにて編輯に勞を要せず、値も低きものに候。願はくば愛讀者諸彥の意に叶ふ樣御取圖ひ相成度此處に苦言を呈し申候。（東京　愛用者の聲）

▲（編者）私に取つて何が一番頭痛の種かと申しますと、それは斷然右のやうな投書です。私は此處で大に開き直つて此の人の得心の行くまでお話をしたいのですが、それは本園開設以來私が屢々口角泡を飛ばさんばかりに論じました趣旨を徒らに反覆するやうなもので、多くの古い愛讀者諸彥に取つては無用の駄辯と聽かれるでせうから、今は何事も申しません。

●又お邪魔に上ります。彼地にて奮鬪してゐる皇軍の寫眞を見まして何とも言ひ知れぬ感に打たれ淚を催すのでした。勇士に對し感謝の念湧くのみです。そしてあの車窓の淚ぐましい一情景、愛妻より首途の祝盃を受くる青年將校の寫眞などには非常なショツクを打ちつけられました。その目で支那兵の寫眞を見ますと勇士の意氣なるものに雲泥の差がありますれ。次に四月號での誤謬を指摘すれば負傷して手當を受けてゐる兵を海軍の一下士と說明してゐる點『世界日誌』に政友會の新議員を三〇六名と誌してゐる點、是は確かに編者の誤りで、あの負傷兵は正に陸兵、政友會新議員は三〇三名だと思ひます。　（廣島　H・M生）

▲（編者）さうです。面目次第も御座いません。

●拜呈貴社御發行の『歷史寫眞』を小生年來愛讀仕居候處、東海道中膝栗毛水口以西御掲載無之且又御陵寫眞の御掲載御中止に相成居候處、今後とも連續御掲載相成樣御願申上候。物の終結を果さざるは甚だ遺憾の事に存候。日支事變も國民として嬉しく拜見仕居候へ共、御陵寫眞の御掲載も我々國民の等しく渴望致居る事に御座候。小生と同感の者多く有之候樣に被存候。御推察願ひ度候。

（陸前古川町　佐々木與右衞門）

▲（編者）『東海道中膝栗毛』及び『御歷代山陵寫眞』の掲載中止に就ては既に屢々御斷りいたしました通りの事情で重ねて冗言を費しませんが、日支事變も略々一段落を告げました今日、次號あたりから愈々再び掲載いたさうと考へてをります。

●一寸お伺ひいたしますが、昨年まで拜見いたしました御陵寫眞はその後見當りませんが如何いたしたのでせう。

（東京池上　大山與四郎）

▲（編者）前述の通りです。

―追記―

右の外、山形縣加茂町吉田順信なる人より非常に鄭重な書狀を寄せられ、三月號掲載井上氏暗殺犯人小沼正の寫眞に對し反對意見を陳べられました。一々御尤もの御說でありましたから、四月號團男暗殺犯人の寫眞の如き故意と掲載を見合せました。是は右吉田氏の御懇篤なる忠告を尊重した結果です。尙又、別にナゴヤ新歷史黨なる人の投書は同地K氏の變名と看做し、沒書に致しました。

世界日誌

自昭和七年三月六日
至昭和七年四月五日

◇三　月◇

（六日） 東京日本橋なる株式取引員小布施新三郎氏が私財二十三萬圓を以て献納したる陸軍飛行機戰鬪機一臺、輕爆撃機一臺偵察機一臺都合三機の愛國號は本日午前十時より代々木練兵場に於て嚴かなる命名式を擧行し、内二機は即刻滿洲に向て出發したり。

（七日） 千葉縣國府臺衞戍司令部主催東京府下小岩町、千葉縣市川町外十一ヶ町村並に軍部聯合の大防空演習は本日正午より江戸川を中心として大々的に擧行せられたり。

（八日） 本年度陸軍特別大演習は大阪府並に奈良縣下に於て擧行せらるることに決定す。

（九日） 新興大滿洲國の建國式は本日卽ち滿洲國の大同元年三月九日午後三時より新都長春の市政公所内式殿に於ていと壯嚴に擧行せられ、執政溥儀氏は諸員起立の間に音吐朗々宣誓文を朗讀したり。

（十日） 國際聯盟特別總會起草委員會に於て起草を了したる日支兩國に對する決議案に關し、帝國政府は棄權することに決定したり。

（十一日） 世界大戰に勇名を馳せ猛將軍として知られつつある**アメリカ**の飛行家**バート・ホール**氏は支那軍用に供する飛行機五臺を携へて渡支の途上、本日布哇**ホノルル**に到着したりとの報あり。

（十二日） **スウエデン**の**マツチ**王として有名なる**クロイゲル・アンド・トール**會社專務取締役**イヴアーン・クロイゲル**氏は今朝佛蘭西**パリ**なる**パリ・ホテル**に於て**ピストル**を以て心臓を射抜き自殺したり。

（十三日） 國民文藝會の昭和六年度に於ける劇壇功勞者として選出されたる人氣女優水谷八重子孃及び舞臺裝置の伊藤熹朔氏に對する表彰及び記念品授與式は本日午後一時より丸の内東京會館に於て擧行せられたり。

（十四日） 昨日擧行せられたる**ドイツ**大統領選擧の結果は本日發表せられたるが、現大統領**ヒンデンブルグ**元帥は一八・六六一・七三六票、その競争者國粹社會黨首領**ヒツトラー**氏一一・三二八・五七一票にして**ヒンデンブルグ**元帥の得票は大統領當選の法定數に達せず、依つて來る四月十日改めて第二回の投票執行せらるることとなれり。

（十五日） 去る十二日新滿洲國外交部長謝介石氏より列強十七ヶ國に對し發せられたる建國通告に關し、**アメリカ**國務省は飽まで不承認の立場を固執し右通告正文をも默殺せんとするものの如く報道せらる。

（十六日） 内務大臣中橋德五郎氏病氣の爲め辭任したるを以て内閣總理大臣犬養毅氏兼任内務大臣として本日親任式を擧行せられたり。

（十七日） **ジユネーヴ**の軍縮會議海軍委員會に於て日英兩國の代表は主力艦及び航空母艦の艦齡制限を軍縮條約草案に依る二十年より二十六年に延長せんことを提議したり。

（十八日） 總選擧後の第六十一臨時議會召集せられ、秋田清氏は衆議員議長に植原悦二郎氏は同副議長にそれぞれ當選、卽日任命せられたり。

（十九日） 第八十四回英國**ケンブリツヂ**大學對**オツクスフオード**大學の**ボートレース**は本日**テームス**河上約四**マイル**の**コース**に於て擧行せられたるが、兩艇力漕の結果、**ケンブリツヂ**大學は**タイム**十九分十一秒、五艇身の大差を以て九度連勝し、是にて通計三回の勝越しとなれり。

（二十日） 上海方面に於ける戰局一段落を告げたるに依り第三艦隊より第三戰隊、第一水雷戰隊及び第一航空戰隊を除かるることとなり本日各諸隊の内地歸還に關し大命發せられ、午後二時上海の各碼頭に群る官民の萬歳聲裡に一路日本へ向ひ凱旋の途に就けり。

（廿一日） 獨逸の大飛行船**グラーフ・ツエツペリン**號は再び南米訪問飛行を企て、本日午前零時三十三分**フリードリツヒハーフエン**發、**ブラジル**の**ペルナンブコ**に向ひたり。

（廿二日） 米國南部の**アラバマ**州を中心にして**テネシー**・**ケンタツキー**、**ジヨージア**の四州に亘り大旋風起り死者の判明したるもの既に百五名に上り尚ほ續々發見せらるる模樣なり。

（廿三日） 一昨年十一月東京驛頭に時の内閣總理大臣濱口雄幸氏を狙撃したる犯人佐郷屋留雄（二五）及び共犯松木良勝（三三）兩名に係る殺人未遂事件の公判は本日東京地方裁判所に於て開廷、鈴木檢事は兩人の罪狀を痛烈に論告し佐郷屋に死刑、松木に懲役十五年を求刑したり。

（廿四日） 上海に於て遺憾なく帝國海軍の武威を發揮したる第二艦隊司令長官末次信正中將、第三戰隊司令官堀悌吉少將、第一航空戰隊司令官少將加藤隆義子、第一水雷戰隊司令官有地十五郎大佐、第二水雷戰隊司令井上繼松少將等の一行は凱旋將軍の名も誇らしく本日午前九時四十分東京驛着凱旋の第一歩を印したり。

（廿五日） 第六十一臨時議會は昨二十四日を以て五日間の會議滿了したるに依り本日貴族院に於て閉院式執行せられ、同時に内閣一部の改造行はれ司法大臣鈴木喜三郎氏は内務大臣に、川村竹治氏は司法大臣に夫々親任せられたり。

（廿六日） 本月中旬以來上海に於て開催中の停戰會議は支那側の態度と主張例に依つて眞劍味を缺き既に五回の正式會議を經て未だ決定に至らずその前途甚だ懸念せらる。

（廿七日） 本月五日男爵團琢磨氏を暗殺したる犯人菱沼五郎の取調に連れて判明したる血盟暗殺團の**テロ**敢行計畫は眞に戰慄すべきものあり、是が主謀者日召事井上昭（四五）古内榮司（三一）等を始め關聯者十三名は本日孰れも殺人共同正犯として起訴され市ヶ谷刑務所に收容せられたり。

（廿八日） 上海**イギリス**總領事館に於ける本日の第六次日支停戰會議に於て支那側依然頑迷、既定の基礎案を根本より覆さんとし事態は今や決裂の危機に瀕したり。

（廿九日） 胡漢民氏を盟主とする支那西南の五省卽ち廣東、廣西、雲南、四川、貴洲は上海に於ける日支停戰會議の終了を待ち、中央反對の通電を發し五省聯盟獨立を宣布せんとする形勢にありとの報あり。

（三十日） 我海軍の新威力として呉海軍工廠に於て建造中の一萬噸級巡洋艦『愛宕』は艤裝全く完了し本日午前十時長谷川工廠長より海軍省に引渡され、海軍々樂隊の奏樂裡に初代艦長依田大佐に依り最初の軍艦旗掲揚行はれたり。

（卅一日） **ソヴイエツト**政府は去る一月以來**ウラジオストツク**方面に大部隊の赤軍を派遣すると共に、砲臺を整備し、南部**ウスリー**方面には新たに飛行場を設置して歐露より多數の飛行機を輸送する等、防備に汲々たるものありとの報あり。

◇四　月◇

（一日） 今春目出度く學習院中等科を御卒業遊ばされたる第三皇弟澄宮崇仁親王殿下には本日陸軍士官學校に御入學あらせられたり。

（二日） 上海江灣鎭西方の戰鬪に於て壯烈なる戰死を遂げたる林少將麾下の金澤第○聯隊○大隊長空閑昇少佐は去る二月二十日江灣鎭の激戰に於て胸部に重傷を被り人事不省に陷り敵軍に收容せられたるが三月十六日上海に歸還、加療中公私一切の事務を處理し同二十八日思ひ出深き舊戰場に於て**ピストル**を以て自殺を遂げたる旨、本日軍部より發表せられたり。

（三日） 間島方面の匪賊益々跳梁し、内鮮同胞の危機迫るものあり、關東軍司令部は朝鮮軍と共に是を挾撃する目的の下に多門○團に對し出動の命令を下したり。

（四日） 上海の戰場に武勳を樹てたる善通寺第十一師團長厚東中將及び久留米歩兵第二十四旅團長下元少將は本日午前九時東京驛着列車にて帝都に凱旋、直ちに參内戰況を奏上し、御陪食の榮を賜はりたり。

（五日） 陸軍省は○○○○在滿部隊の交代並に警備地域の擴大に伴ふ指揮機關の必要上、第八第十師團の殘部及び若干の特殊部隊を滿洲に派遣する旨發表したり。

本號に限り定價金六拾錢

歷史寫眞第貳百貳拾八號（每月一回一日發行）
大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和七年四月二十五日印刷納本
昭和七年五月一日發行

定價送料共一部　金五拾錢
朝鮮、滿洲、樺太、臺灣　同　金六拾錢
其他外國　同　金八拾錢

編輯發行兼印刷人　東京府下代々幡町笹塚一二三〇　多田鐵雄
印刷所　東京市小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社
發行所　東京市神田區千代田町二八　歷史寫眞會
本誌取扱所
（電話神田六五七）（振替東京三四八二九）